2021年6月14日（毎週月曜日発行）全国商工新聞3462号付録

ど～も、おばんでぇ～す

劇団銅鑼の７月公演のご案内

この物語は実話で青森にある農業高校で命の大切さを考え続けた女子高生たちのお話しです。**"いのち"**と本気で向き合い考え続ける高校生たちの３年間を描いた、リアルな葛藤が見どころの舞台です。

2017年初演のアトリエ公演からキャストも変わり、練馬文化センターでの公演となります。
そして今回初めての舞台手話通訳がついた公演となります。

まだまだ予断の許さない状況ではありますが、広めの会場で自由席のためディスタンスも確保され安心して観ていただけます。大人から子供たちにも多くの人たちに届けたいと強く思っている作品です。

民商会員の方(ご家族含)には、一般4,500円→**4,050円**の割引チケットをご用意いたしました。お申込みの際に「板橋民商会員」とお伝えください。

お申込は
劇団銅鑼 03-3937-1101
又は佐久 090-9323-6454
是非、ご覧ください。

舞台手話通訳付き公演

いのちの花

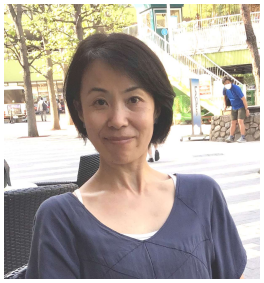
青森県立三本木農業高校。
動物科学科に入学したマナミたちは、糞の匂いにやられながらも家畜たちの世話に励んでいる。
ある日、見学に訪れた動物愛護センターで、
殺処分された動物たちの骨が「ゴミ」として捨てられていることを知る――
声を上げることもできずに死んでいった動物たちの
「いのち」を再生させようと立ち上がった、5人の女子高生の真実の物語。
「いのちの授業」が今、始まる！

【会場】
練馬文化センター小ホール
〒176-0001 東京都練馬区練馬1-17-37
TEL 03-3993-3311

2021 年 6 月 14 日（毎週月曜日発行）全国商工新聞 3462 号付録

一緒にちょっと考えませんか、環境問題 ⑥

板橋支部 内藤（ないとう） 章子（あきこ）さん



「知ること」

「知ること」

４/２２のアースデーでは、日本でも若者が２０３０年までの削減目標６２％を求めて抗議活動を行っています。

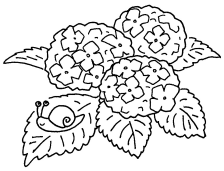
そんな事もあまりニュースにならない日本ですが、これ、やっぱり若者が声を上げるだけの根拠があるんです。私も後から調べてはっとさせられた２０１９年のグレタさんのスピーチ、本当によく理解している人って、じつはあまり多くないのではないでしょうか。

グレタさんはかなりきつい言葉を各国首脳に発して、怒った顔ばかりクローズアップされていましたが、大事なところは「今後１０年間で CO2 を半分にしようという一般的な考え方があります。しかし、それによって世界の気温上昇を 1.5 度以内に抑えられる可能性は５０％しかありません。」というところなのです。

えっ？って思いませんか？ 今回、菅さんが得意げに発表した日本の２０３０年までの排出量は２０１３年度比４６％です。つまりグレタさんの言う一般的な考え方５０％にも満たっておらず、さらに 1.5 度というグレタさんの言う温度（?）の実現には５０％の可能性しかないと怒っているのです。

1.5 度というのは地球の平均気温の上昇の上限をここまでに抑えたい、その目標です。

前回のお話で、地球のはじまりから現在までのほんの短い期間に、それまでずっと保ってきた平均気温が１度超えました。たったの１度で何だと思う方、自分の体温の感覚で理解されるとわかりやすいです。３６度平均の人が３７度になるとあれっ？って感じ。２度上がって３８度だとどうですか？寝込みますね。それくらいの影響が地球に起こるということなのです。

次号につづく

６月といえば、しとしと降る梅雨の季節です。
最近ではゲリラ豪雨で命さえ危険に・・・、夏も暑さで人が亡くなる、
これも地球の温度が上がっているから。確かに菅さんをはじめ、各国の発言を聞くとのんびりしているような気がします。